

埋蔵文化財センターを訪ねて



南国市篠原にある高知県立埋蔵文化財センター（以下、埋文センター）は、発掘調査業務や出土品などの保管・管理、埋蔵文化財に関する資料の施設での展示の他、各種講座、体験教室などを行っています。

8月に広報委員が埋文センターを訪れ、企画調整担当チーフの坂本裕一さんに案内していただきました。

① 本館1階 展示室・特別収蔵庫にて



展示室では、「四国を掘る 墳墓」という企画展を開催し、遺跡が紹介されていました。また、奥の部屋では実際に弥生土器に触れることもできました。

特別収蔵庫には、田村遺跡群で出土した銅矛が展示され、窓越しから現物を見ることができました。

② 北館にて



土器パズルコーナーでは、破片から土器を復元する体験もできます



完成!

③ 収蔵庫にて



出土した遺物を保管しています。コンテナ箱が約8万個入るスペースの大半が埋まっています。復元した弥生土器も置かれていて、土器の形や模様には地域や年代の違いが出るそうです。また、北部九州や近畿地方の影響を受けたであろう土器が出土しているようですが、交通手段の限られた古代においても人の交流が盛んであったことが分かります。

次第に高知県独自の特徴を持つ土器も作られるようになり、模様が派手で高知らしさが出ていた様子を伺い、興味深かったです。

④ 南館にて



発掘調査の整理作業を見学しました。職員の方が出土した破片1つ1つに番号を記入し、接合していました。破片がない部分は石膏で補填し、原型を丁寧に復元する作業にじっと見入ってしまいました。

他にも測量や写真撮影などを行い、図版を作成、遺物や遺構データを元に執筆を行い最終的な報告書を作成します。

⑤ 火起こし体験



終わりに

最近では若宮ノ東遺跡で確認された弥生時代後期の土器片から「何」「不」という漢字2文字が刻まれている可能性があるという発見もあり、古代に関心が集まっています（4・5ページ参照）。

埋文センターの体験教室の中でも人気のある「火起こし体験」にも参加しました。舞錐（まいざり）という道具を使い、先の尖った木の棒を板とこすり合わせて火種を作ります。簡単に見えましたが、いざやってみると取つ手を押すコツをつかむまでに少し時間がかかりました。

令和8年3月31日まで埋文センターで展示を行っているので、ぜひ見に行ってみてください。